

ぐりふぁん letter



Vol.
22
2011. 6

INDEX

- ◆自然幼稚園におひさま発電所ができました！
京都オムロン地域協力基金「第22回ヒューマンかざぐるま賞」受賞 2
- ◆きょうとグリーンファンドとmusubi design～絵本とパンフレットと… 3
- ◆あなたのひとこと 今、伝えたいこと 4
2011年度 総会報告 5
- ◆ご存じですか？震災や非常時に役立つ太陽光発電の自立運転機能 6
- ◆きょうとグリーンファンドへの期待
編集後記 7

認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)

きょうとグリーンファンド

自然幼稚園に、おひさま発電所ができました！

京都市右京区にある自然幼稚園は、広い前庭にさまざまな樹種の大木が枝を伸ばしている古い幼稚園です。80周年を機に、創立時からの木造の園舎を思い切って建て替えるに当たり、おひさまプロジェクトに取り組みました。園の名前にふさわしく、エネルギーも自然のものをという園長先生の思いが形となったのです。

自然幼稚園おひさまプロジェクト 収支報告

2011年5月

3月3日のひな祭りの日に完成を祝う点灯式が催されましたが、まさか、次の週には日本のありようを変えてしまう大震災と未だに収まらない原発事故が起こってしまうなんて！忘れられない自然幼稚園の点灯式になりそうです。

園では雨水タンクの設置や井戸を設けることなども考えておられるよう

収入の部		支出の部	
「自然幼稚園おひさまプロジェクト」寄附金(85件)	390,000	設備設置費	7,707,000
きょうとグリーンファンド「おひさま基金」	528,000	印刷製本費	309,000
京都地域創造基金助成金	492,000	記録費	65,000
関西グリーン電力基金助成金	500,000	環境学習・点灯式等運営費	44,000
地域新エネ導入促進事業助成金	3,670,000	通信運搬費	46,000
自然幼稚園負担金	3,220,000	旅費交通費	84,000
		事務費	545,000
合計	8,800,000	合計	8,800,000

※きょうとグリーンファンド「おひさま基金」には、京グリーン電力運営協議会からの寄附金377,000円を含みます。(1,000円以下原則四捨五入)

ですが、東北地方の被災の様子を見るにつけ、エネルギーと水の確保は万が一の際の避難場所の機能としても必要なことでしょう。

きょうとグリーンファンドが10年来めざしてきた地域分散型のエネルギーで持続可能な社会を子どもたちに手渡すための地域の拠点が、また一つ増えました。市民による地域づくりの一環として多くの方々を支えられて実現したおひさま発電所15号機は、これからの日本のありようを考える上で、今まで以上に重い意味を持つものとなりました。



京都オムロン地域協力基金 「第22回ヒューマンかざぐるま賞」受賞

京都オムロン地域協力基金「第22回ヒューマンかざぐるま賞」をいただきました。本当にありがたいです。「数年前から注目はしていたのですが、活動を始めて10年に満たなかったので……。10年になられたので今回授与ということになりました」と京都オムロン地域協力基金事務局の方からお聞きしました。「副賞に100万円がついています」と伝えられたとき、収支がとても心配な時期だったので、正直言うと救われたような思いがしました。

3月11日の震災以降、福島原発事故の深刻さに引き換え、私たちの活動がほんとうに遅々とした歩みに見え、私自身はかなりがっかりしてしまっていました。しかしながら、この京都の思わぬところで私たちの活動をちゃんと見てくださっていた方がおられたんですね。これから長く生きていく子どもたちのことを思うと、がっかりしている場合ではないと、今気を取り直しているところです。

そういえば、「今までのようなわけにはいかない」と、気合を入れなおしている人が結構周囲にいて、きょうとグリーンファンドも新しい連携ができそうな気配があります。いただいた賞をどのように活かしていけるか、みなさんと知恵を絞りたいと思います。

(きょうとグリーンファンド 大西 啓子)

“本当の意味で選択肢のある社会をつくるため、
デザイン、クリエイティブの力を使って社会や企業が抱える様々な問題を解決していくこと”

これは今年4月から木谷真人とともに正式に立ち上げたmusubi designのミッションです。

私たちが活動するフィールドとして、特にNPO、NGOのみをクライアントとして限定している訳ではないのですが、戦略的にデザインを取り入れていきたい団体(NPO、一般中小企業等)に対して、その事業や広告、広報などに対してサポートすること、良いものが必要なものがちゃんとお客様の選択肢となり得るような状態をつくること、また、その活動に持続可能性をもせることができるようなデザイン(デザイン視点)の導入、仕組みづくりの手助けを行っています。

NPO、NGOにとって伝えることがそのまま活動を支えるということにかなり直結しているのは確かなことであるにも関わらず、デザインや広報分野が業界全体的にかなり未開拓であります。広報の手法や戦略を適切に行っていくことはこのうえなく重要です。多くの場合、予算、人材、経験など、どの観点からみても自らで解決することが困難な場合は少なくはありません。自己の営利目的ではなく、社会のために立ち上がったのにも関わらず、途中で立ち行かなくなってしまう。そこに大きな問題があると考えました。活動そのものを伝えていくには、何が問題なのか、何が必要なのか、それはどのようにすれば実現できるのか、などひとつずつ丁寧に見つめつつ、適切に解決していく必要があります。そのための広報であり、ロゴタイプやタグラインの開発であり、チラシ、パンフレット、webサイト、商品開発なのです。

はやいもので、私たちmusubi designがきょうとグリーンファンドさんと出会ってから1年が経とうとしています。そもそも、私たちがきょうとグリーンファンドさんと知り合うきっかけになったのが、去年1年間お世話になった地域公共人材開発機構に入社したことがきっかけでした。より人の喜ぶ場に近いかたちで、社会に貢献できるかたちで仕事がしたいと思い前職場を辞め、知人から地域公共人材開発機構のことを紹介され、入社し、そこでインターンシップ先を探すためのマッチング交流会で初めてきょうとグリーンファンドさんとお会いしました。そしてそれがご縁でお付き合いさせていただき、きょうとグリーンファンドさんの10周年企画として、企画構成から参加させていただき、この度、絵本とパンフレットを完成させることができました。(とは言っても、もう2カ月前の話になりますが)



10周年企画 絵本とパンフレット

新たなターゲット層開拓として、今までよりも少し若い世代に向けたものではありましたが、今のところ、反応も上々のようで私たちもほっと胸をなでおろしています。しかし、そこで満足しては何も先には進みません。確実に成果・結果を残していかなければならないのです。きょうとグリーンファンドさんは、自然エネルギー普及のためにこれまでの10年間で着実に保育園、幼稚園からの成果・実績を得ていましたが、近年の環境破壊のスピード、そして先の東北地方太平洋沖地震での原発問題等、普及にはさらなるスピードと広がりが必要になってきています。これまでの支持層に加え、新たな層を取り込むことは、きょうとグリーンファンドさんにとっての今後10年の活動において、さらには日本全体にとってもとても重要になってくると考えています。

絵本・パンフレットの活用はもとより、きょうとグリーンファンドさんの活動を、今後も戦略的部分を含めたデザインでサポートしていくことが、日本、そして社会に対する私たちに与えられた使命だと思っています。とは言いまでも、私たちmusubi designはまだ立ち上がったばかりであり、至らぬ点も多々あると思います。今後ともご指導、ご鞭撻を賜わりながら、きょうとグリーンファンドさんの発展と共に私たちも成長し、より多くの人に貢献できる活動をしていければと思っています。

あなたのひとこと... 今、伝えたいこと

きょうとグリーンファンドは2000年11月13日にNPO法人として認証され、10周年をむかえました。大震災が起き、それに続く原発事故は未だ先が見えません。今こそ伝えたいひとことをみなさまからお寄せいただきました。

きょうとグリーンファンド10年と震災、原発事故

きょうとグリーンファンドは2000年から省エネ、節電と自然エネルギー普及を掲げて活動をしてきました。このテーマは、今や多くの人々の関心を引くものになりました。「ようやく」そうだったというのが実感ですが、それにしてもあまりにも多くの命が失われ、原発事故はいつ収束を迎えるのか、その影響は今後どのような形で現れるのか予想もつかない、そのような中では、やってきてよかったと喜ぶわけにはいきません。ただ、ただ私たちの非力を悔いるばかりです。

あちこちで、今後の日本がどうあるべきか、さまざまに叫ばれています。きょうとグリーンファンドは、普通の人が日々暮らす中で、次の世代につなげるまちをつくるため、確かな営みとしてのおひさま発電所づくりを続けたい、と考えています。多くの方々に参加が広がることを信じて、次の10年への歩みを進めていきます。どうぞ、変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

(きょうとグリーンファンド理事・事務局長 大西 啓子)

会員 大浦 宏邦さん

今回の震災と原発の事故で、多くの人が原発の危険性について認識するようになったと思われます。将来的には原発から自然エネルギーに転換していく必要がある。そう思っている人も少なくないことでしょう。

とはいえ具体的にどうすれば自然エネルギーを活用できるのか、よく分からないという人も多いかもしれません。環境に良い行動を多くの人にとるようになるには

- 1 必要性を感じること
- 2 具体的な方法を知ること
- 3 負担が小さいこと

の三つの条件が必要です。今回の震災は多くの人に自然エネルギーの必要性を感じさせはしましたが、それが実際の行動に結びつくには第2、第3の条件が必要です。

幸い、きょうとグリーンファンドには実際に数多くの「おひさま発電所」を建設してきた経験と実績があります。この経験を生かして自然エネルギー活用のノウハウを積極的に発信してはどうでしょうか。たとえば、自宅で太陽光パネルを設置する方法やその際の注意点、補助金の申請の仕方、災害時の自立運転の方法などを情報提供すれば参考になる人は多いと思います。

自宅にパネルを設置するスペースが無い人には「おひさま発電所」への出資という選択肢を提供する。またベランダや窓際におけるサイズのパネルでもエネルギーやリチウム電池に充電して、携帯電話やLEDランタンを灯すには十分な電力が得られます。

こうした多彩な自然エネルギー活用のノウハウを提供することで実際に自然エネルギーに接する人を増やしていくことができるでしょう。その経験をツイッターやフェイスブックなどを通じて共有する仕掛けをつくることできれば、さらにノウハウの蓄積が進み参加の敷居を低くしていくこともできると思います。「おひさま発電所」設置を中心にして、こうした「おひさま2.0」への発展を目指すことが今後の一つの方向ではないでしょうか。

会員 井上 真美子さん

どうして止められなかったのだろう・・・非常用の電源が失われ、メルトダウンを起こす危険性は、20年も前から予想されていたというのに。なぜ、この地震国、日本で54基もの原発の存在をゆるしてしまったのだろう・・・。こんなにも大きな犠牲を払わなければ原発を止めることができなかったのだろうか？

放射能は風にのり、水に混じり、地面に降り、すべてを汚染する。悪夢のような現実を目をつぶりたくなる。

もう決して二度とこのようなことを繰り返してはならない。今こそ、自然エネルギーへの転換が必要だと真に思う。

会員 宮井 和子さん

原発事故による放射能漏れが、非常に深刻な状況の中、避難されている方々の安定した生活の確保が急務である事は言うまでもありませんが、一方で、今後のエネルギー問題を早急に検討し、少なくとも、今、対応できる事は何かを考える必要があるという事は誰もが感じていることだと思います。

このような事故の後でも尚、原発の安全性と経済性を支持する流れもあるが、今こそ脱原発の方向性を、緻密な計算と長期的な計画により打ち出す必要があると思います。再生可能なエネルギーの方法としてある、太陽光、風力、潮力、バイオマス等様々の方面の専門家が集結して検討していかれることを期待しています。

以前、市民共同発電所に興味を持って、その頃、夢想していたことがあるのですが、高速道路の防音壁を利用して太陽光パネルを設置してはどうかと考えたことがあります。その運用は一筋縄ではいかないと思いますが、太陽光パネルの設置には土地問題があると考えられ、その点は、ある程度解消できるのではないかと、場所、送電方法、耐久性、安全性等問題はいっぱいあるとは思いますが、発電が分散され、災害時にも被害が集中しないのではないかとと思われるのですが…。あくまでも素人考えで稚拙かもしれませんが、どんな形であるにしても、一つの動きになればと思っています。

2011年度 総会報告

きょうとグリーンファンド 大西 啓子

5月27日(金)、今年の総会は無事に終わりました。ということになります。昨年は単年度収支で大きな赤字となり、理事さんから「次年度はこのままではやっていけない」というご指摘で、討議が長引きました。結局、未収分などを整理して修正、事務局も補助金申請などに励んで事業を進め、2010年度の収支は一応黒字となりました。ひとまずほっとしています。

しかしながら、例年募集が始まっているはずの国の補助金が、今年は今のところありません。今まではこの補助金を頼りに、きょうとグリーンファンドのおひさま発電所は費用を賄ってきたので、組み立てを一から考え直さねばならず、現実的に事務局としては相当に頭が痛い。良いお知恵があればぜひご提供ください。

震災と福島原発事故以降、きょうとグリーンファンドの活動への注目度は上がっているのかもしれませんが、事業に必要な寄付は連動しているわけではありません。今まで通り、ふれずに地道に、新しいおひさま発電所づくりを進めていきたいと思っています。

ご存じですか? ▶▶▶ 震災や非常時に役立つ太陽光発電の自立運転機能

ワーカーズコープエコテック 林 敏秋

3月11日に起こった東日本大震災によって東北電力や東京電力管内では停電地区が発生しました。東北電力管内も徐々に停電が復旧しつつあります。しかし、東京電力管内では、福島第一原発の事故によって首都圏が計画停電に追い込まれました。

このような震災や非常時に実は太陽光発電が大変役に立つことがあまり知られていません。住宅用の太陽光発電はもちろんのこと、きょうとグリーンファンドが協力して設置した保育園や幼稚園の太陽光発電システムも全てに自立運転機能が付いているのです。この自立運転機能とは何かというと、関電の電気が停電になってもパワーコンディショナー（直流から交流に切り換える機器）のスイッチを切り換えると太陽光発電システムが稼働している限り電気を取り出すことができるのです。たいがいはパワーコンディショナーの右側の側面にコンセントがあり、そこから電気を取り出すことができます。コンセントしか取り出すことが出来ないのも、屋内配線で使っている蛍光灯や部屋のコンセントは使えません。従って、コンセントから使用する機器まで電線を引っ張るためのコードリールや延長コードなどを用意しておく必要があります。

では、どれくらいの電力が取り出せるのかというと、上限は1.5kWです。これはコンセントの規格で決められています。但し、太陽光発電が1.5kW以上発電していないと使えません。500Wしか発電していなければ、当然500Wしか使えません。具体的にどんなものが使えるかは

[別表] を参照してください。

太陽光発電は天気によってかなり変動します。当然出力も変動しますので注意が必要です。雨天や曇天時には小容量の機器しか使えません。例えばデスクトップ型のパソコンなどは、最悪の場合ハードディスクなどの破損につながるおそれがありますので使用は避けた方がよいでしょう。ノートパソコンなどバックアップ電池を内蔵しているものは大丈夫です。

太陽光発電自立運転モードによる電気機器稼働実験結果（抜粋）

つないだ電気機器(特徴)	接続時の太陽光発電出力	結果 ^{注)}	備考	
テレビ	T社 14型ブラウン管	1.0kW	○	
	T社 25型ブラウン管	1.5~1.9kW	×	
	S社 21型ブラウン管	1.5kW	○	
	V社 29型ブラウン管	2.3kW	○	
	M社 28型ブラウン管	2.9kW	○	
冷蔵庫	H社 435 L	1.0kW	○	
	H社 435 L	1.6kW	×	
	F社 350 L	1.5~1.9kW	▲	
	H社 455 L	1.5kW	○	
	M社 455 L	2.3kW	○	
電気ポット	T社 370 L	2.9kW	○	
	N社	1.5kW	○	
携帯電話	N社 (充電)	1.5kW	○	
電子レンジ	S社	1.0kW	×	
	T社	1.5~1.9kW	×	
	N社	1.5kW	○	
	M社	2.9kW	○	
炊飯器	Z社	1.0kW	▲	炊飯すると不稼働
	S社	1.5kW	○	
	F社	2.9kW	○	

注) ○=稼働、▲=不安定、×=不稼働
特定非営利活動法人太陽光発電所ネットワーク (PV-Net) 調べ

・それでは具体的に自立運転機能の使い方を振り返っておきましょう。

1. 自立運転コンセントがどこにあるか、また形状も確かめておく。
2. まず、取扱説明書を良く読みましょう。（自立運転切替モードのやり方を良く読んでおく事が重要です。操作要領をコピーして壁に貼っておくと便利です。）
3. 主電源ブレーカをOFFにします。（停電していても安全のために必ず主電源はOFFにします）
4. 太陽光発電ブレーカをOFFにします。
（取扱説明書に書いていなくても必ず安全のためにOFFにしましょう。）
5. 自立運転モードに切り換えます。（メーカーや機種によってやり方が異なります。）
6. 接続機器を自立運転コンセントにつなぎます。（接続機器のスイッチがOFFになっていることを確かめてから行ってください。）
7. 電気機器使用時はこまめに発電状況を確認してください。（突然の発電出力の低下は機器によっては事故につながる可能性があります。）
8. 必ず元に戻しましょう。（自立運転モード解除、太陽光発電ブレーカON、主電源ONの順番で復帰します。災害時は関電の電源復帰後行ってください。関電の電源復帰後、300秒（5分）のタイムラグが設けてありますので連系モードにしているもすぐにパソコンは動きません。）

保育園や幼稚園は非常時災害時は避難場所になる可能性が大です。その時に役立つように日頃から準備や練習をしておくことが重要です。実験しておかないといざというときに役に立ちません。宝の持ち腐れになります。是非一度おためし下さい。分からないときは、きょうとグリーンファンドかエコテックまでお問い合わせ下さい。

きょうとグリーンファンドへの期待

立命館大学産業社会学部教員 秋葉 武

3月3日、私は自宅の近所でもある自然幼稚園おひさま発電所の点灯式に参加させてもらい、とても貴重な時間を過ごさせてもらいました。きっかけはオンラインの寄付サイトGive Oneで「きょうとグリーンファンド」の発電所建設の寄付募集を知り、わずかですが寄付をさせてもらったことです。

ここでGive One (<http://www.giveone.net/cp/pg/TopPage.aspx>)の紹介をしておきたいと思います。東京の中間支援NPOパブリックリソースセンターが運営する寄付サイトで、(本来ならスタッフが紹介すべきですが、忙しいスタッフに代わって理事である私が紹介させていただきます。)[だれもが所得の1%を寄付する社会]の実現を目指して、現在119団体のNPO・NGOにネット上から寄付でき、きょうとグリーンファンドもその一つです。「日本赤十字社」や「日本ユニセフ協会」といった行政に近い団体ではなく、機動性のある市民団体への寄付を促すところに特徴があります。

それまで手堅く運営してきたGive Oneですが、3月11日の東日本大震災をきっかけに様相が一変しました。端的に言えば「1ヶ月100万円」の寄付金が「1日100万円」集まるようになり、被災地支援を行うNGOに活動資金が回るようになりました。もちろん、日本赤十字社、共同募金会に集まる「義援金」には金額ではとうてい及びませんが、少なくない市民が、その使われ方にも関心を持ち始めています。

「義援金」は被災者に公平に配分するため、被災した地方自治体などで「配分委員会」を設置し、配分基準や方法、被災者への伝達方法などを定めなくてはなりません。しかし、阪神大震災と異なり、今回の震災では津波によって役場の建物が完全に崩壊したり、また原発周辺の自治体は役場機能を他市町村に移転したため、配分委員会の設置が困難で、被災世帯に届くのは当面先になる見込みです。

それに対してGive Oneの支援するNGOは現場での活動にすぐ使われ、また行政や準行政機関のサービスが届きにくい外国人、障害者、アトピーなど食物アレルギーの子供を対象とするなど、市民団体ならではの活動が展開されています。

さて、きょうとグリーンファンドの話に戻りたいと思います。ファンドは10年間に渡って積み上げてきた環境教育のノウハウを持ち、また出資ではなく寄付で資金を集める戦略など、他の団体にはない特徴を持っており、その一端は点灯式でも体感しました。他方で、「3.11」の震災、そして原発事故は今後のきょうとグリーンファンドの活動に大きな波紋を投げかけると思います。私は今日、通学中の児童が、「水素爆発」について語っているのを耳にして、ショックを受けました。同時に、それがこの国の現実であり、子どもが大人以上にそれを真摯に受け止めていることに驚きました。

3.11後の社会にしっかりと向き合い、「がんばろう日本」というスローガンではとうてい語ることでできない、微かな社会のひだをきょうとグリーンファンドがどう掬い取っていくのか、うまく表現できませんが、その象徴的な活動を手がける時期かもしれないし、私も何か手伝えたらと思います。



編集後記

- ・大量の電気を使うことのリスクを、もっと多くの人と共有できていたら、と思います。原子力を人がコントロールできると信じてしまったことの代償は、余りにも大きく計り知れない……。 (K.O)
- ・先日、自然観察会に参加した時「ムラサキツユクサ」が咲いていました。この花の染色体は、放射線に影響されやすいため原子力発電所付近に植えられ、汚染をチェックしていると……。 (Y.F)
- ・3月の下旬、娘の小学校入学を祝うカードが届きました。長崎にある絵本の配本を受けている出版社からです。その一節に、「想ってください。想うことから人として大切なことがわかってきます。」とありました。想いを寄せ合うことで動き出すことがあるはずですね。 (M.N)
- ・表紙のリニューアルをしました。これからもおひさまと一緒に…子どもたちの未来に希望を込めて、絵本(おひさま、み～つけた!)のひとコマを使いました。次号もみなさまの声をお寄せください。 (S.K)

□ きょうとグリーンファンドのメンバーは

(入会申込書は事務局まで)

正 会 員	10,000円/年	催し物のご案内、会報(年2回程度)をお送りします。 ★「NPO法人社員」として会の運営に参加することができます。
賛 助 会 員	6,000円/年	催し物のご案内、会報(年2回程度)をお送りします。
法人・団体会員	10,000円/年	催し物のご案内、会報(年2回程度)をお送りします。

□ 寄附のお願い

おひさま基金への寄附は随時お受けしています。

寄附の方法：ゆうちょ振替をご利用下さい。

ゆうちょ銀行振替口座番号：00930-6-157817

加入者名：きょうとグリーンファンド

会 員 数	81
正 会 員	45
賛助会員	33
法人会員	3
2011/5/27現在	

★2010年5月1日付で国税庁から認定NPO法人として再認定されました。
認定NPO法人への寄附は、税法上の特別措置の対象になります。

《 ぐりふぁん日誌 》

2010年

11/13 太秦手づくり二土の市に出展、NEDO野田氏視察
11/17 musubi design夢窓幼稚園升光園長インタビュー
11/24 宝ハーマニストファン説明会参加
11/25 京都御池中学校環境学習について打合せ
11/29 蜂ヶ岡中学校校長井上芳志氏と面談
12/ 3 京都御池中学校環境学習
12/ 5 嵐電スタンプラリーで広報
12/ 6 京グリーン電力運営協議会
12/ 7 アースガーデン/植月さんと協議
12/ 8 京都地域創造基金とアクションプランについて協議
12/ 9 ヒアリング(金沢大学経済学部赤堀さん)
12/11 太秦手づくり二土の市に出展
12/13 地域公共人材開発機構/musubi designと絵本、パンフレット打合せ 第79回理事会
12/20 アースガーデン/植月さんと協議
12/22 地域公共人材開発機構/musubi designと絵本、パンフレット打合せ

3/ 1 ホンダカーズ京都、支援内容についてプレゼン
3/ 2 京都府温暖化防止活動推進センター 運営委員会
3/ 3 自然幼稚園 点灯式
3/ 7 京グリーン電力運営協議会
3/ 8 あげぼの保育園 環境学習(腹話術)
3/10 ヒアリング調査(内閣府)
3/15 春日野園 環境学習(腹話術)
3/23 年賀寄附金 監査
3/24 再生可能エネルギーWG
3/28 京都グリーン購入ネットワーク幹事会
3/29 京都新聞取材
3/30 京都新聞取材(向島保育園)
3/31 10年間の活動評価調査について松本さんと打合せ
4/ 7 オムロン地域協力基金事務局来室、ヒューマンかざぐるま賞授与について
4/11 阪急阪神未来のゆめ・まち基金、社内報取材(妙林苑/GF)
4/12 京エコロジーセンターと環境学習について話し合い 第81回 理事会
4/21 10年間の活動評価調査について松本さんと打合せ
4/22 再生可能エネルギーWG
5/11 株ヒノコ/松田さん、Soma Coffee/藤田さんと懇談 京エコロジーセンターと環境学習について懇談
5/16 あげぼの保育園雨水タンク見学、東大阪ポッポ保育園、自然エネルギー市民の会 陵ヶ岡保育園 環境学習(腹話術)
5/17 アースガーデン/植月さんと確認書交換
5/19 妙林苑 環境学習(自然観察会/京大演習林)
5/20 会計監査
5/24 阪急阪神未来のゆめまち基金助成報告会で報告
5/26 つくし保育園 環境学習(自然観察会)
5/27 藤沢市立村岡中学校来室 第82回理事会、総会、懇親会

2011年

1/07 Soma Coffee/藤田益宏さん 来室
1/14 ホンダカーズ京都/駒阪さんと連携について話し合い 幼稚園・保育園におひさま発電所設置と環境学習に関する案内、送付
1/17 京グリーン電力運営協議会
1/18 環境市民「ドイツの環境先進都市から…」コメンテーター
1/20 自然幼稚園にて点灯式等の打ち合わせ
1/26 第80回理事会
2/ 1 かがやき保育園 環境学習(腹話術)
2/10 ヒアリング調査(宇都宮市)
2/14 京グリーン電力運営協議会
2/15 阪急阪神 未来のゆめ・まち基金助成審査プレゼン
2/22 阪急阪神 未来のゆめ・まち基金助成決定
2/23 拡大理事会 「GFこれまでとこれから」
2/28 京都市入札資格更新申請

認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)

きょうとグリーンファンド

〒600-8104 京都市下京区五条高倉西入る万寿寺町143いづつビル 6 F
TEL/FAX ; 075-352-9150 E-mail ; info@kyoto-gf.org
URL ; http://www.kyoto-gf.org (火～金 13:00～17:00)

